



石川県における縄文後晩期集落の特質

伊藤 雅文（財団法人石川県埋蔵文化財センター）

1970年に行われた金沢市近岡遺跡発掘調査で縄文晩期の包含層からイネ科の花粉が検出され、四柳嘉章・藤則雄氏は縄文農耕論を提起した。一方、吉岡康暢氏は下野遺跡の位置づけをめぐる論理の中で、縄文農耕を否定する見解で反論し、30有余年を経た。

縄文前期と後晩期の集落は、標高10m以下に立地するものが多い。気候の寒冷化に伴う海退現象と関連付けされている。集落の低地化は金沢平野で顕著であり、ケーススタディとして検討する。

北加賀地域の特性 - 生業とのかかわり - 手取川以北の北加賀地域は、手取川扇状地と小立野台地の河岸段丘、砂丘の後背湿地およびそれに連続する沖積低地に地形区分できる。早期から中期にかけては丘陵から段丘に集落が位置するものがほとんどで、中期の北塚遺跡と古府遺跡が標高10mという低地に位置することは注目できる。しかし、これらの集落は後期前半には終息し、後期後半から晩期にいたり、砂丘後背湿地およびそれに連続する沖積低地あるいは扇状地に集落が出現する。

砂丘の後背湿地に位置する近岡遺跡は標高0m前後に遺構面がある。また標高5m付近に遺構面がある藤江C遺跡は、明るく開けた環境だが周囲に湿地の存在という古環境が復元され、食糧生産にかかわる花粉等の検出はない。特徴的な遺物として打製石斧の出土量もそれほど多くない一方で磨石類や祭祀具が一定量出土しているため、小規模ながら集落として完結した姿を見ることができる。

一方、扇状地端の地下水自噴地帯に位置する米泉遺跡の集落は周囲に栗林と湿地という環境である。より大規模な集落のチカモリ遺跡や御経塚遺跡も同様に、生産にかかわる植物の花粉の検出はない。御経塚遺跡で端的だが、土偶や石刀類玉類などの呪具、石鏃や打製石斧・磨製石斧などの生産用具、磨石や石皿の食料加工用具の出土比率が非常に高く、一般的な集落とは言いがたい。

さらに、扇央部～扇頂部にある乾遺跡や粟田遺跡白山遺跡、山間の段丘に位置する下野遺跡や東島遺跡では打製石斧の割合が高く、根菜類採取の比重が高いことを示すものの、土偶などの呪具・祭祀具や石皿などの食料加工用具の比率が少ないのが特徴である。

考察 集落が低地に立地するようになることがそれまでの生業との違いを推測させるが、具体的な状況を把握できた例はない。それは花粉分析などの自然科学的な分析が遅れていることに起因するのであるが、上記のような考古学的な事実関係からいろいろな事柄が推測できる。

砂丘後背湿地にある集落は独立したムラと考えられ、地勢ゆえに小規模なムラの姿がうかがえる。

扇状地にある集落は、扇端部には大規模なムラを形成し、環状木柱列や土偶などの祭祀面で突出した内容となっている。砂丘後背地のムラとの繋がりは扇状地とのムラと比べて希薄である。

扇央・扇頂・山間部の集落は生産用具が目立ち、食料加工用具や祭祀具の比率が低く、独立した集落として理解しがたい。扇端部の大規模集落との関わりの中で活動する可能性を考える。

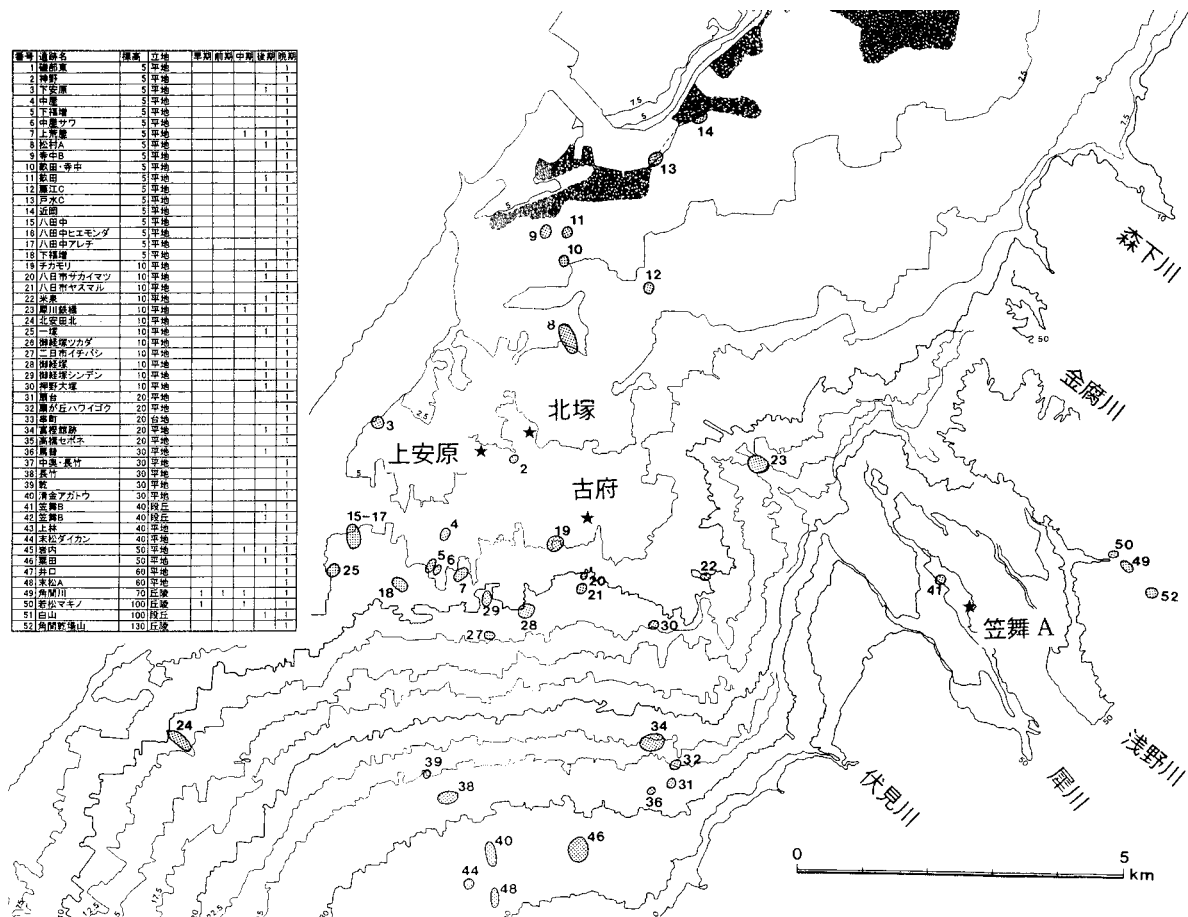
いずれも遺跡もイネ等の栽培には否定的で、米泉遺跡の貯蔵穴など生産活動の中で水さらし場の重要性があり、この点で低地との結びつきを想定できよう。

参考文献

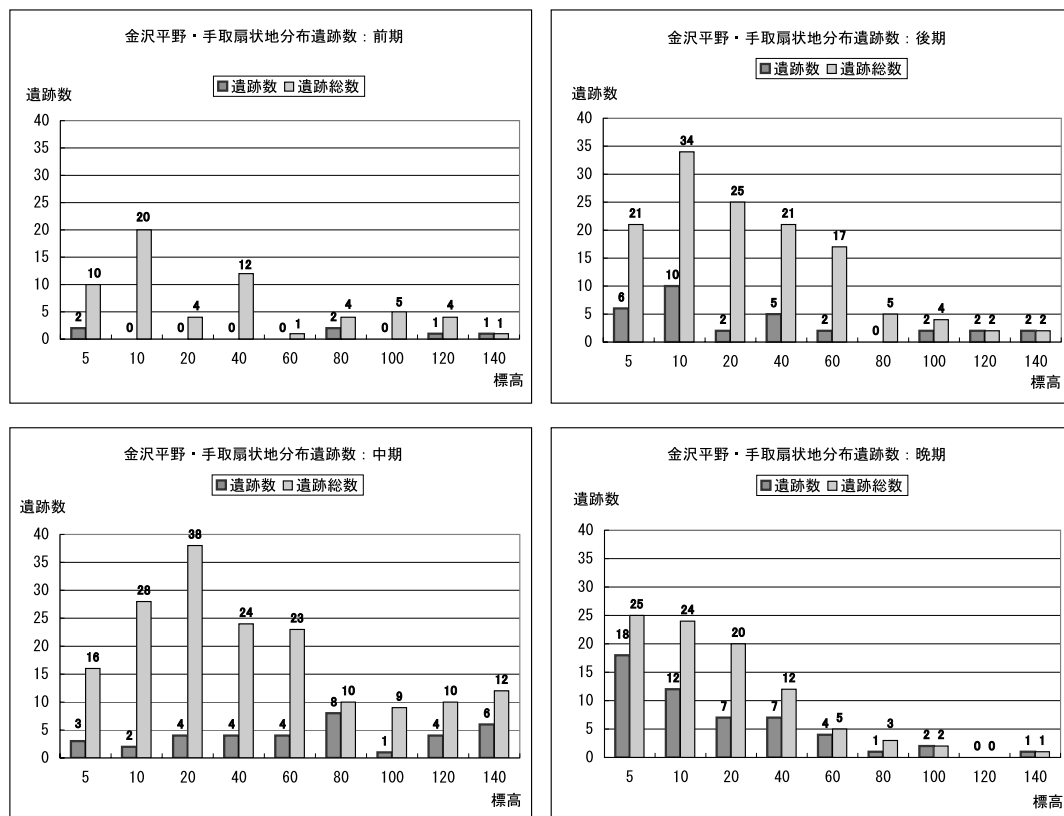
藤則雄・四柳嘉章1970「金沢の縄文晩期近岡遺跡からの稲の発見」『考古学研究』17 - 3

吉岡康暢1971「石川県下野遺跡の研究」『考古学雑誌』56 - 4

山本直人1990「縄文時代の地域社会論に関する一試論 - 手取川水系を中心として - 」『古代文化』42 - 12



第1図 北加賀の地形と縄文後・晩期集落（ は中期集落）

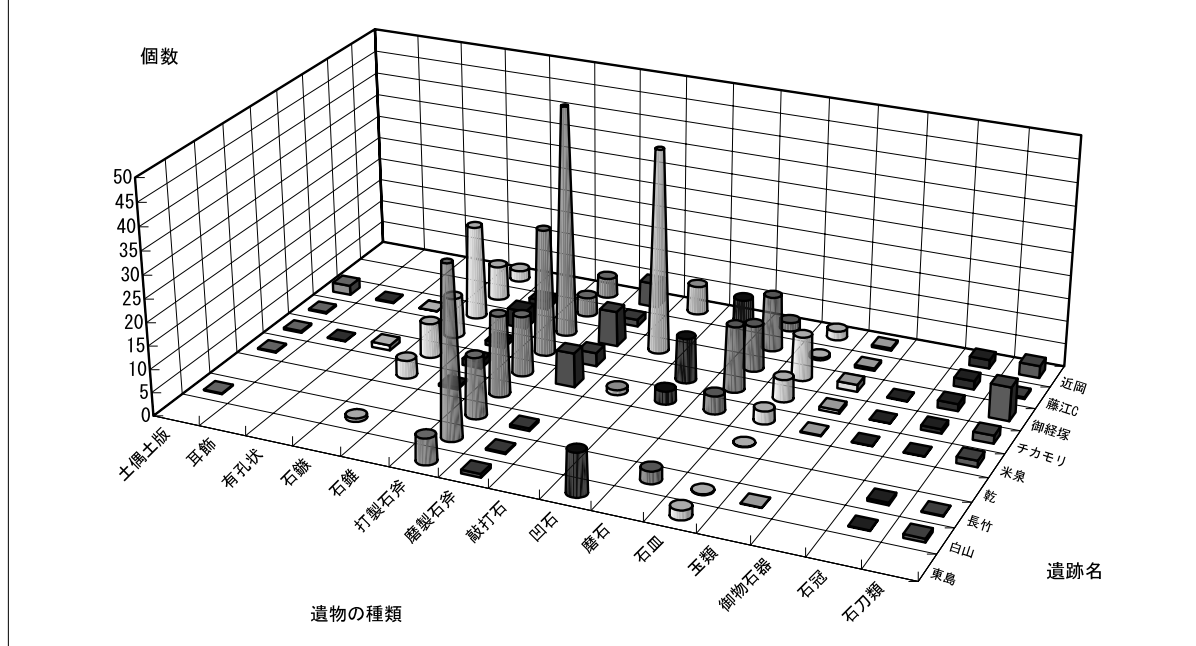


第2図 北加賀の縄文集落の時期と立地（標高）別変遷

遺 跡 名	土 製 品								石 製 品															骨 製 品				
	土偶	土版	耳飾	有孔状	土錘	環状	獣形	ンスタ	石鏃	石錐	玉鏃石	石打斧	石磨製	石打石	凹石	磨石	石皿	石錘	浮子	玉類	石御物	石冠	石刀類	有溝	岩偶	ビヘア	垂飾	弓頭
近 岡									10			18	22	26	21	8	8	5	5	2		8	11					
佐波モリノマエ									2			1	18	4	1			1										
下 安 原									5			25	2	9	11	5	1						1					
藤 江 C									56	14		31	11			89	4	12		4		14	3	10		1	1	2
御 経 塚	80	1	8	2		2	1	1	788	149	2	2930	290	1700		381	365	38		59	5	60	281					
チ カ モ リ	11								301	35	37	944	99		332	487	166	21		24	3	32	61					
米 泉	8		3	25	7				164	32		284	160	23	62	85	61	22	20	4	2	2	30					
乾	5								89	10		400					3					1	1		1			
長 竹												73	3									3	1					
白 山	2				1				7			369	3			26	2	7		1		1	8					
東 島												14	2		23		5	4										

第1表 北加賀の縄文晩期集落遺物組成

遺跡名	土製品			石製品															調査面積	立地標高	地形区分
	土偶土版	耳飾	有孔状	石鏃	石錐	打製石斧	磨製石斧	敲打石	凹石	磨石	石皿	玉類	御物石器	石冠	石刀類						
近岡				2.4		4.3	5.3	6.2	5.0	1.9	1.9	0.5		1.9	2.6				418	0	平地
藤江C				7.5	1.9	4.1	1.5				11.9	0.5		1.9	0.4				750	5	平地
御経塚	2.1	0.2	0.1	20.5	3.9	76.1	7.5	44.2		9.9	9.5	1.5	0.1	1.6	7.3				3850	10	扇状端
チカモリ	0.3			8.7	1.0	27.4	2.9		9.6	14.1	4.8	0.7	0.1	0.9	1.8				3450	10	扇状端
米泉	0.4	0.1	1.1	7.5	1.5	12.9	7.3	1.0	2.8	3.9	2.8	0.2	0.1	0.1	1.4				2200	10	微高地
乾	0.2			3.9	0.4	17.4					0.1								2300	30	扇状部
長竹						13.0	0.5							0.5	0.2				560	30	扇状部
白山	0.2			0.7		36.9	0.3			2.6	0.2	0.1		0.1	0.8				1000	100	扇頂
東島						5.6	0.8		9.2		2.0								250	470	山地



第3図 北加賀の縄文晩期集落遺物組成（100㎡あたりの遺物出土個数）



第4図 金沢市米泉遺跡の状況
（アミカケは後期の遺構）

（小矢部市教育委員会2002 「フォーラム『環状木柱列と縄文の聖地』」）